

農産FAX情報 第10号

令和6年10月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

(1) 雑草対策

○イネ科雑草は越冬後に防除することが難しく、連作ほ場に発生しやすい。秋のうちに除草剤散布を行う。

○除草剤は、小麦の生育状況によって使用量が異なるため、注意する（表1）。

表1 除草剤使用例

適用雑草	薬剤名	10a 当たり使用液量(mL)	使用時期	使用回数
1年生雑草	ガルシアフロアブル	150～250mL	は種後出芽前	1回
		100～200mL	出芽直前～小麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	
		200～250mL	小麦4～6葉期	
	ガレース乳剤	200mL	は種後出芽前	
		150～250mL	小麦出芽後～出芽揃	
		100～150mL	小麦1～3葉期 (雑草発生前～発生始期)	
*キタシーブフロアブル	80～100mL	は種後～小麦3葉期		

*キタシーブフロアブルを使用の際は、薬害を避けるため出芽が揃ってからの散布を推奨しています。

2 てんさい

(1) 貯蔵時の注意点

○収穫したてんさいを、ほ場に一時堆積・貯蔵する場合は、被覆シートなどで被覆し、腐敗・乾燥を防止する。また、堆積場所の周辺に排水溝を設けるなど、排水対策も実施するとよい。

3 農作業事故防止

○秋は、農作業事故の発生が最も多い時期。降雨や強風などの影響も受けやすいため、機械点検や準備を行い、遅れてもあせらず作業する。

○ばれいしょや豆類の収穫作業では「巻き込まれ・挟まれ事故」「転落事故」に注意！作業中に茎葉や石などの「つまり」が発生した場合には、必ずエンジンを停止。回転の停止を確認してから作業を行う。作業機の乗り降りには運転者に合図をし、停止してから行う。

○日没が早くなっているため、道路走行時に後方から来る車両に気づかれやすいよう、前照灯や車幅灯を早めに点灯し、低速車マークや反射板・反射シールなどを取り付け追突防止に努める。